

第2章 研究の内容 4. 5A児事例

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-01-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00064696

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



4. 5A児事例

米林 加織

抽出児について：5A児（男児）

・1学期の様子

探究心について：たたかいごっこで使う武器やかぶりものを、自分のイメージに近づけようと工夫しながら作る姿が見られる。また生き物の変化や生長によく気付き、虫眼鏡で観察したり本を開いて見たりする姿も見られた。

自己主張について：仲の良い友達には「～しない?」「～しようよ」と提案したり、「でも～だったら…」と思いを伝えたりする。そうでない相手に対しては思いを伝えられずに、その場でつぶやいてみたり、教師に伝えに来たりする姿も見られた。

自己抑制について：学級でルールのある遊びをしていて、ルールを守らなかったことを友達に指摘され、唇を噛みしめながらルールを受け入れ、折り合いをつけていた。遊びの時間にいざこざになると、進級当初は大泣きし、泣き止んだり気持ちを切り替えたりするまでに、時間がかかることがよくあった。

・抽出児とした理由

製作や自然物への興味関心がものすごく高く、今後どのような探究する姿が見られるのか、興味があり抽出児として設定した。自己主張については、親しい友達でなくても自分の思いを伝えることができるようになってほしいという思いがあった。また自己抑制については、どのような援助を行うことで、気持ちを切り替えることができるのか探っていきたいと思い、抽出児として設定した。

事例4-1 5A児 9月10日 「もうハサミ使える」

探究心:物事の仕組みや性質, 原因を知ったり確かめたりしようとする事

幼児の姿

ごっこ遊びに使うお面を段ボールでつくっていた5A児が、困った表情を浮かべながら教師に話をしに来た。

5A児 「先生、できない…」

教師 「どこができなくて困ったの？」

①5A児 「ここ（目のところ）、うまく開けない…」

教師 「あっ、段ボールでつくろうとしてたんだね。

もう少し柔らかい紙なら、うまくいくかもしれ

探究心

- ① おでこにつけるだけのお面ではなく、目の部分がくり抜いてあり、実際に顔面に装着できるお面をつくりたいという思いが、この後の粘り強さにつながっている

明確な目的

ないし、そっちにしてみる？」

5A児 「うん…」

教師から厚紙を受け取った5A児は、ペンでお面のイラストを描き、②もう一度作りだしたが、途中で手が止まった。

5A児 「先生、やっぱりうまくできない…」

教師 「じゃあ、5C児ちゃんに聞いてみたら？」

5A児 「・・・」

しばらく待ってみたが、5A児から尋ねる姿が見られなかった。

教師 「5C児ちゃん、5A児くんが困っているみたいなんだ」

5C児 「ああ、わたしはね、ハサミでそのまま切って、お顔の切れちゃったところはね、裏からテープで貼ったんだ」

③その後もしばらく5A児の手は止まっていた。

教師 「5C児ちゃんのやり方でやってみる？」

5A児 「……でもそれだったら、お顔のところ切れちゃうし、なんかいやだ」

教師 「そっかあ。お顔のところ切れちゃうのはいやなんだね。どうしようか」

④5D児 「それなら、ハサミでブスッと開けたらいいじゃん」

5D児のアイデアを試してみるものの、なかなかうまくいかない。

5A児 「やっぱりできない…」

教師 「うーん、そういえば前に、5E児くんや5F児くんが同じように穴をあけていたことがあったし、聞いてみたら？」

5A児 「…」

近くに5F児がいたが、5A児は目に涙を浮かべ始めていた。

教師 「ねえ5F児くん、前、箱にまるい穴を開けて、折紙でつくったチューリップをさしたことあったじゃん？あの時、どうやって箱に穴開けたっけ？」

5F児 「ああ、確か目打ちで少しずつ穴を開けていったよ」

教師 「ありがとう。じゃあ材料室から目打ち持ってくるね」

探究心

- ② 教師から受け取った厚紙を使ってみたものの、それだけではまだ自分の課題が解決しないことに気付く 気づき

(教師の援助)

5A児は、困ったことを教師に相談することがよくあるが、友達に尋ねることが少ない。5C児が側でお面をつくっていたので、教師にだけでなく友達にも相談してみしてほしいと思い、促してみた。

探究心

- ③ 切った跡やテープで補強した跡のあるお面ではなく、目の部分をくり抜いたお面にしたいという強い思いをもっている 明確な目的

探究心

- ④ 友達のアドバイスに耳を傾け、試している 試行



(教師の援助)

なかなかうまくいかず、意欲が失われるかもしれないと思い、仲立ちしたり、目打ちを提示したりした。

教師 「はい、目打ち持ってきたよ」

5D児 「ぼく、ここ持ってあげる」

⑤5D児の助けもあり、目打ちを使って、5A児と5D児で再び挑戦し始めた。5A児は目打ちで少しずつ穴を開け、1cm程の切り込みをつくった。

5A児 「もうハサミ使える」

目打ちでつくった切り込みにハサミを入れ、ようやく目の部分をくり抜くことができた。その後、タフロープをつけて、顔面に装着することのできるお面が完成した。

探究心

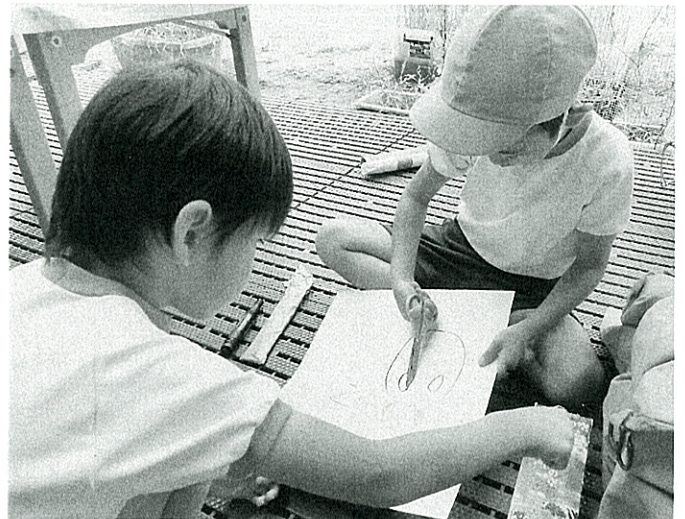
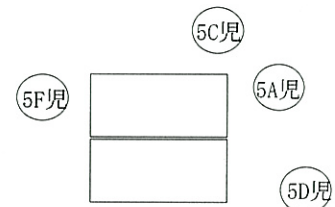
- ⑤ 友達のアドバイスに耳を傾け、試している。また、途中でハサミを使うことができることに気づき、適した道具を選んでつくっている

試行
気付き



(補足)

5A児, 5C児, 5D児, 5F児の位置関係



事例4-2 5A児 11月2日 「ねえ先生見て！このドングリ、皮がある！」

探究心:物事の仕組みや性質, 原因を知ったり確かめたりしようとする事

幼児の姿

登園するとすぐに、5G児が家の近くの公園で見つけたドングリを教師に見せに来た。「すごく小さいドングリ!」「何の木のだングリなんだろう?幼稚園に、同じドングリあるかな?」と5G児と教師で話しながら、保育室内の自然物コーナーにあるドングリや、そこに置いてあったドングリの図鑑と一緒に眺めていた。すると、登園したばかりの5A児が、肩に鞆を掛けたままそこにやって来た。

5A児 「ねえ、何してるの?」

5G児 「ほら、すごく小さいドングリ!」

教師 「5G児ちゃんがこんな小さなドングリ見つけたんだって。何のだングリかな?って話してたんだ」

すると、5A児は図鑑の写真をじっと眺めはじめた。

①5A児 「これ、コナラだ。だって、これ(図鑑のコナラの写真)と同じくらいの大きさだし」

教師 「ほんとだ。同じくらいの大きさだね」

その後すぐ、5A児の視線は、自然物コーナーに置いてあった別のドングリに移った。

②5A児 「ねえ先生、見て!このドングリ、皮がある!」

教師 「ほんとだ。皮があるね」

そして5A児は、再び図鑑の写真をじっと眺めはじめた。

③5A児 「この皮ついてるドングリ、きっとスダジイだ!ほら見て!この(図鑑の写真の)スダジイも皮ついてるし」

教師 「ほんとだ。スダジイかもしれないね」

その後、5A児は身支度の続きを始めた。

(環境構成)

自然物コーナーには園で収穫した種や米やカシワのだングリの他に、教師が園外で見つけてきたドングリ4種類(スダジイ、アベマキ、マテバシイ、ウバメガシ)を、3日ほど前から提示してあった。また『どんぐりころころ』(ひさかたチャイルド)の16~17ページを開き、ドングリの名前を調べられるように置いてあった(図鑑の写真の大きさは実寸大)。

これまでドングリを眺める幼児は2~3人いたが、ドングリの名前をつぶやく様子は見られなかった。

探究心

① 大きさを手掛かりに、5G児の持ってきたドングリと図鑑を照らし合わせ、ドングリの名前を調べている

照合

探究心

② 自然物コーナーに1種類のみ皮のついたドングリがあることに気づき、驚いている

気づき 驚き

探究心

③ 皮がついていることを手掛かりに、ドングリと図鑑を照らし合わせ、ドングリの名前を調べている。また、皮のついたドングリが図鑑にもう1種類載っていたので、大きさも手掛かりにしながら調べていたと思われる

照合



事例4-3 5A児 2月12日 「ぼくが見つけたの、これ！ このゴリラみたいなやつ」

探究心:物事の仕組みや性質, 原因を知ったり確かめたりしようとする

幼児の姿

里山での自然体験活動の後、「こっちはタヌキの巣があったんだよ！」「こっちは冬芽を見つけたよ」など、見つけたものや楽しかったことを学級のみんなで共有していた。すると5A児が席を立ち、教師のところへやって来て、ほし組の絵本コーナーを指さしながら話し始めた。

①5A児 「先生、今日ぼく、里山で冬芽見つけたんだけど、同じ冬芽、この前あそこの絵本で見たような気がするから、ちょっと見てきてもいい？」

教師 「うん、いいよ。見ておいで」

5A児はすぐに、保育室内の絵本コーナーへと向かい、本を探し始めた。しばらくすると、5A児が教師のところに戻ってきた。

5A児 「先生、冬芽の絵本、ここにあったはずなのにい」

教師 「どんな絵本だった？」

5A児 「表紙に冬芽の写真がいっぱいあるやつだった」

教師 「ああ、その絵本、K先生が持っていたような気がする。今日はもう帰る時間だから、月曜日K先生に借りておくね」

そして月曜日、学級の絵本コーナーに『ふゆめがっしょうだん』の絵本を設置しておいた。昼頃まで様子を見たが、5A児が絵本に気づく様子が見られなかったため、教師から声を掛けてみた。

教師 「5A児くん、K先生から絵本借りてきたんだけど、これであってる？」

5A児 「そう、これ！」

②その後、表紙の冬芽の写真を数秒じっと眺め始めた。

5A児 「ぼくが見つけたの、これ！ このゴリラみたいなやつ」

里山で見つけた冬芽を、絵本で確かめることができ嬉しかったのか、5A児は得意気な表情を浮かべていた。

探究心

① 自然体験活動で見つけた冬芽を、絵本コーナーに設置してあった冬芽の絵本で確かめてみたいと思い、絵本を見てもいいか教師に尋ねている

照合

(補足)

前日4日間、表現会に向けて、5A児は隣の保育室(つき組)で生活することがあった。その際、つき組の絵本コーナーに設置してあった『ふゆめがっしょうだん』(福音館書店)を見掛けたのか、学級の絵本コーナーで見たと感じていたようだった。

(環境構成)

目に止まりやすいように、表紙が見える絵本棚に絵本を設置した。



(教師の援助)

金曜日の5A児の確かめたい気持ちを大切にしたいと思い、教師から尋ねた。

探究心

② 表紙に載っている写真をじっと眺め、自分が見つけた冬芽と同じものを探している。また冬芽をゴリラの顔に見立てて楽しんでいる

照合
見立て

探究心:物事の仕組みや性質,原因を知ったり確かめたりしようとする事

幼児の姿

2週間前に、里山で自然体験活動を行い、5A児は冬芽に興味をもった。自然体験活動の数日前に、隣の学級の絵本コーナーで『ふゆめがっしょうだん』の絵本を見掛けたことも覚えており、自然体験活動から戻ってくると「絵本で見たような気がするから、ちょっと見てきてもいい？」と尋ねる姿や、絵本の写真を見ながら、「5A児が見つけたの、これ！このゴリラみたいなやつ」と話す姿も見られた。

この日、5A児は同じ学級の友達と一緒に、園庭のモミジの木で近くで転がしドッジボールをして遊んでいた。①すると急に、5A児の視線が正面に生えているモミジの木へと移った。そして、そのモミジの木の側で幼児の様子を見守っていた教師のところへ走ってやって来て、モミジの冬芽を手に取りながら話し始めた。

5A児 「ねえ、先生見て！ここに冬芽がある！」
 教師 「本当だ。冬芽があるね」
 5A児 「ほら見て。顔みたい！」
 教師 「たしかに！顔みたいだね」
②5A児 「あっ、カマキリの顔だ！」
 教師 「なるほどー。カマキリの顔か！」
 嬉しそうな表情を浮かべ、見つけたことや感じたことをはきはきと伝えた5A児は、満足したのか走って戻り、再び転がしドッジボールの続きを始めた。

(環境構成)
 幼児が自然体験活動を振り返ることができるよう、保育室前廊下に写真を掲示している。冬芽の写真は掲示していなかったが、木の幹を顔に見立てた写真などを掲示していたので、冬芽を顔に見立てるという意識が続いたのかもしれない。

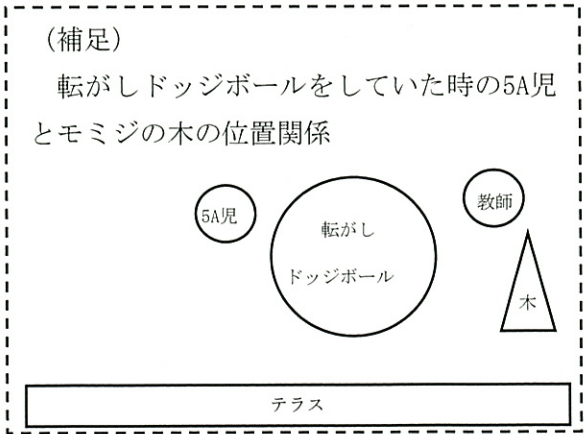
探究心
 ① 周りの自然物をよく見ている姿や、走ってやってきて、モミジの冬芽を手に取り取る姿、2週間冬芽に興味をもち続けている姿から、5A児の冬芽に対する強い好奇心が伝わってくる

好奇心の持続

(教師の援助)
 5A児が見つけたことや感じたことを大切にしたいと思い、共感しながら一緒にモミジの冬芽を眺めた。

探究心
 ② モミジの冬芽をカマキリの顔に見立てて楽しんでいる

見立て



事例4-5 5A児 9月10日 「先生、やっぱりうまくできない…」

自己主張:相手に対して自分の気持ちを説明したり表現したりすること

幼児の姿

ごっこ遊びに使うお面を段ボールでつくっていた5A児が、困った表情を浮かべながら教師に話をしに来た。

①5A児 「先生、できない…」

教師 「どこができなくて困ったの？」

5A児 「ここ（目のところ）、うまく開けられない…」

教師 「あっ、段ボールでつくろうとしてたんだね。もう少し柔らかい紙なら、うまくいくかもしれないし、そっちにしてみる？」

5A児 「うん…」

教師から厚紙を受け取った5A児は、ペンでお面のイラストを描き、もう一度作りだしたが、途中で手が止まった。

②5A児 「先生、やっぱりうまくできない…」

教師 「じゃあ、5C児ちゃんに聞いてみたら？」

5A児 「・・・」

しばらく待って見たが、5A児から尋ねる姿が見られなかった。

教師 「5C児ちゃん、5A児くんが困っているみたいなんだ」

5C児 「ああ、わたしはね、ハサミでそのまま切って、お顔の切れちゃったところはね、裏からテープで貼ったんだ」

その後もしばらく5A児の手が止まっていたので、声を掛けた。

教師 「5C児ちゃんのやり方でやってみる？」

③5A児 「……でもそれだったら、お顔のところ切れちゃうし、なんかいやだ」

教師 「そっかあ。お顔のところは切れちゃうのはいやなんだね。どうしようか」

5D児 「それなら、ハサミでブスッって開けたらいいじゃん」

5D児のアイデアを試してみるものの、なかなかうまくいかない。

5A児 「やっぱりできない…」

教師 「うーん、そういえば前に、5E児くんや5F児くん

自己主張

① 遊びの中で困り、教師に助けを求めている

手助け

自己主張

② 一度やってみてみたものの、解決しないことに気づき、再び教師に助けを求めている

手助け

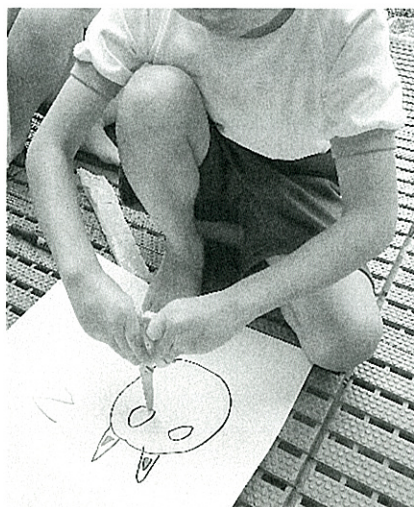
(教師の援助)

5A児は、困ったことを教師に相談することがよくあるが、友達に尋ねることが少ない。5C児が側でお面をつくっていたので、教師にだけでなく友達にも相談してほしいと思い、促してみた。

自己主張

③ 5C児のアイデアでは納得いかない理由を、教師に伝えている

説明



が同じように穴をあけていたことがあったし、聞いてみたら？」

5A児 「…」

近くに5F児がいたが、5A児は目に涙を浮かべ始めていた。

教師 「ねえ5F児くん、前、箱にまるい穴を開けて、折紙でつくったチューリップをさしたことがあったじゃん？あの時、どうやって箱に穴開けたの？」

5F児 「ああ、確か目打ちで少しずつ穴を開けていったよ」

教師 「ありがとう。じゃあ材料室から目打ち持ってくるね」

教師 「はい、目打ち持ってきたよ」

5D児 「ぼく、ここ持ってきてあげる」

5D児の助けもあり、目打ちを使って、5A児と5D児で再び挑戦し始めた。5A児は目打ちで少しずつ穴を開け、1cm程の切り込みをつくった。

5A児 「もうハサミ使える」

目打ちでつくった切り込みにハサミを入れ、ようやく目の部分をくり抜くことができた。その後、タフロープをつけて、顔面に装着することのできるお面が完成した。

(補足)

友達に尋ねることへの不安や、教師がすぐに解決に導かないことへのもどかしさを、涙や口数の少なさで表出していると思われる。

(教師の援助)

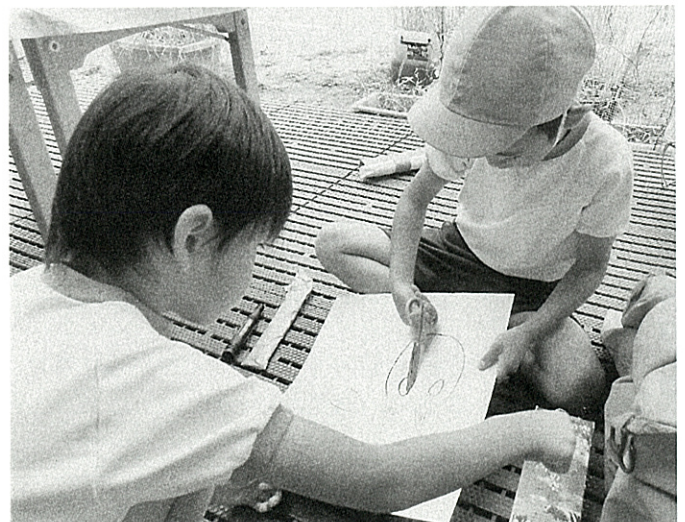
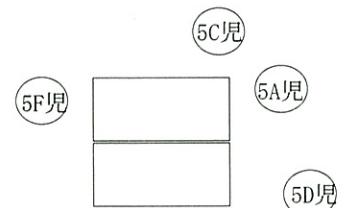
なかなかうまくいかず、意欲が失われるかもしれないと思い、仲立ちしたり、目打ちを提示したりした。

(補足)

5A児は目に涙を浮かべたまま言葉を発していなかったが、5D児と一緒に5F児の話に耳を傾けていた。お面の目の部分を開けたいという思いが失われる前に、5F児のアイデアを試すことができるよう、教師が材料室にすぐ取りに行った。

(補足)

5A児、5C児、5D児、5F児の位置関係



自己主張:相手に対して自分の気持ちを説明したり表現したりすること

幼児の姿

5A児はこの日、同じ学級の友達6人と一緒に園庭で転がしドッジボールをしていた。これまで幼児は、「逃げる人が3人になったらボールを2個にする」というルールで2週間ほどこの遊びを楽しんでいた。しかしこの日は、他の幼児が別の遊びにボールを1個使っていた。逃げる人が3人になった時、5H児が「ちょっと待って！ボールが足りない！」と気付いた。

①そして5A児の「ちょっとみんな集まってー！」という呼びかけによりみんなが円になり、「どうする？」「このままじゃできない」「ボール1個だとなかなかチャンピオン決まらないし、もう1回最初からする？」と相談が始まった。

②5A児 「ねえ、ちょっと待って。いいこと考えた。当てる人が4人いたら、逃げる人も4人になるし、いいんじゃないの？」

5H児 「でも4+4=8だから、8人いるよ」
数名の幼児が自分たちの人数を数えて確かめ始めた。

5H児 「でもこれは4+3（今は4人と3人）。
だから（4人ずつには）分けられないってこと」

5E児 「じゃあ、あと1人だけ来てくれなかったら無理ってことだね」

人数を勘違いしていたことに気付いたのか、もしくはあと1人来てくれなかったら無理と言われたからか、5A児は少し唇を噛みしめながら、友達の話に黙って耳を傾けていた。「3人と3人にするなら誰か1人やめないといけない」「それに少ないと当てにくい」と、他の幼児が話しているうちに、5A児の表情は元に戻り、再び話し始めた。

③5A児 「ねえ、じゃあ鬼になりたい人って誰？」

5F児が静かに手を挙げた。

5A児 「5F児くんね。じゃあ、鬼になりたくない人は？」

5E児、5H児、5K児、5J児、5C児が手を挙げた。

5H児は先程の試合が途中になっていることが気になってか、「でもさっきはさ…」と話し出す。5E児に「今は別の話をしているよ」と言われるものの、再び「でもさっきは…」と話し出したところで、5A児は話し始めた。

④5A児 「でもさあ、（このまま相談していたらもう一度始

(環境構成)

これまでに学級で転がしドッジボール楽しむ機会を設けてきた。ルールは学級や学年で共通のものとなっていき、そのルールのもと、繰り返し楽しむ姿が見られた。また、自分たちで遊びを進めることができるよう、ボール2個と櫛が入った籠を準備しておいた。チャンピオン(最後まで当たらなかった幼児)が櫛を肩に掛け、自分たちで繰り返し楽しんでいた。

自己主張

- ① 自分たちで相談して解決しようと、自分からみんなに一度集まるよう呼びかけている

呼びかけ

自己主張

- ② 自分のアイデアを友達に提案している

提案



自己主張

- ③ 再び自分から話を進めようと声を掛け、相手意識をもちながら、友達の思いを尋ねている

状況確認

めるのが)遅くなるし、最初っからしたら?」

5J児 「そうだね」

5H児 「ボールはもう、1つしかないから仕方がないね」

5A児はすぐコート中央に入って準備し始めた。しかし5H児が「あのさあ、1つのボールで思いついたんだけど、あのさあ、なんかさあ……」と5H児は最後まで自分なりに言いたいことを言いきり、4人に聞いてもらったことでスッキリしたのか、「はじめよっか!」と声を弾ませ、再び転がしドッジボールが始まった。

自己主張

④ 自分なりに理由を伝えながら、最初から行おうと提案している

理由 提案



事例4-7 5A児 1月26日 「なんか『ポチッ』のところが大きい声で言いにくい」

自己主張:相手に対して自分の気持ちを説明したり表現したりすること

幼児の姿

表現会に向け、みんなで劇のストーリーやセリフの一つ一つを考えてきた。この日は、同じ場面に登場するメンバーで集まって、セリフが書いてある紙を見ながらセリフを覚えたり、声に出したりして練習していた。すると5A児が教師のところにやって来た。

①5A児 「先生、『それならこの音楽です』の後の、『ポチッ』がなんか言いにくい」

理由を詳しく聞くことで、解決できるかと思い、教師から尋ねてみた。

教師 「そっかあ。どうして言いにくい?」

②5A児 「うーん、なんか大きい声で言いにくい…」

教師 「じゃあみんなに相談してみようか」

そこで教師から、一旦みんなに呼びかけてみた。

教師 「ちょっとみんな聞いて。5A児くん、何か困っていることがあるみたい」

みんなは自分の練習を一旦やめて、5A児に注目した。

教師 「5A児くん、さっきの話、みんなにも言える?」

③5A児は少し不安そうな表情を浮かべながらも、すぐに話し出した。

(環境構成)

みんなで劇のあらすじを考えた後、一つ一つのセリフについて、みんなで考えてきた。それを教師が全て記録し、幼児が見ながら練習できるようにしておいた。

自己主張

① 困ったことを自分から教師に相談している

教師への相談

自己主張

② 困っている理由を伝えている

理由

(教師の援助)

これまで自分たちで相談しながらセリフを考えてきたので、教師から解決策を提案しなくても、みんなに相談すれば解決できると思い、すぐに場を設けた。5A児はこれまでに、困ったことを自分から友達に相談できずに涙ぐむことがあったので、教師が5A児と友達をつなぎ、すぐに相談しやすい雰囲気をつくった。

5A児 「なんか『ポチッ』のところが大きい声で言
いにくい」

周りの幼児から「じゃあ、そのセリフなくして、違う
のにする？」という考えも出たが、「えー、ぼくは『ポ
チッ』って言いたいんやけどー」と5L児は話す。

5M児 「じゃあそれなら、『スイッチオン!』って
5A児くんが言った後に、5L児くんが『ポチ
ッ』って言ったら？」

周りから「それいいね!」「そのアイデアいいんじゃ
ない?」と声が聞こえてくる。5A児は困った表情ではな
く、自分なりに何か考えているような表情で黙ってい
た。

教師 「5A児くん、5M児ちゃんのアイデアはどう？」

5A児 「もう大丈夫」

5A児は明るい声でそのように答え、5L児と一緒に新し
く決まったセリフで練習を始めた。そして二人で元気よ
く、セリフの掛け合いを繰り返し楽しんだ。

自己主張

③ 困っていることを友達に相談している

友達への相談

(補足)

元々、5A児が「それならこの音楽です」とセ
リフを言った後に、2人で「ポチッ」と言うこ
とになっていた。また、この部分のセリフは5L
児が中心となって考えていたので、5L児は「ポ
チッ」というセリフを言いたい気持ちが強かつ
た。

事例4-8 5A児 9月10日 「やっぱりできない…」

自己抑制:自分の気持ちを抑えて行動すること

幼児の姿

ごっこ遊びに使うお面を段ボールでつくっていた5A児が、
困った表情を浮かべながら教師に話をしに来た。

5A児 「先生、できない…」

教師 「どこができなくて困ったの？」

5A児 「ここ(目のところ)、うまく開けれない…」

教師 「あっ、段ボールでつくろうとしてたんだね。

もう少し柔らかい紙なら、うまくいくかもしれ
ないし、そっちにしてみる？」

5A児 「うん…」

教師から厚紙を受け取った5A児は、ペンでお面のイラスト
を描き、もう一度作りだしたが、途中で手が止まった。

5A児 「先生、やっぱりうまくできない…」

教師 「じゃあ、5C児ちゃんに聞いてみたら？」

5A児 「……」

しばらく待ってみたが、5A児から尋ねる姿が見られなかつ

(補足)

5A児は、困ったことを教師に相談する
ことがよくある。製作が好きなので黙々
とつくることが多いが、今回のように困
った時は、困った表情を浮かべながら教
師のところへ来ることもある。いざこざ
などの対人関係で困ったことがあると、
その場で大泣きすることもある。

た。

教師 「5C児ちゃん、5A児くんが困っているみたいなんだ」

5C児 「ああ、わたしはね、ハサミでそのまま切って、お顔の切れちゃったところはね、裏からテープで貼ったんだ」

その後もしばらく5A児の手が止まっていたので、声を掛けた。

教師 「5C児ちゃんのやり方でやってみる？」

5A児 「……でもそれだったら、お顔のところ切れちゃうし、なんかいやだ」

教師 「そっかあ。お顔のところは切れちゃうのはいやなんだね。どうしようか」

5D児 「それなら、ハサミでブスッって開けたらいいじゃん」

5D児のアイデアを試してみるものの、なかなかうまくいかない。

5A児 「やっぱりできない…」

教師 「うーん、そういえば前に、5E児くんや5F児くんが同じように穴をあけていたことがあったし、聞いてみたら？」

①5A児 「…」

近くに5F児がいたが、5A児は目に涙を浮かべ始めていた。

教師 「ねえ5F児くん、前、箱にまるい穴を開けて、折紙でつくったチューリップをさしたことあったじゃん？あの時、どうやって箱に穴開けたっけ？」

5F児 「ああ、確か目打ちで少しずつ穴を開けていったよ」

教師 「ありがとう。じゃあ材料室から目打ち持ってくるね」

教師 「はい、目打ち持ってきたよ」

5D児 「ぼく、ここ持ってあげる」

②5D児の助けもあり、目打ちを使って、5A児と5D児で再び挑戦し始めた。5A児は目打ちで少しずつ穴を開け、1cm程の切り込みをつかった。

5A児 「もうハサミ使える」

目打ちでつくった切り込みにハサミを入れ、ようやく目の部分をくり抜くことができた。その後、タフロープをつけて、顔面に装着することのできるお面が完成した。

(補足)

この時の5D児の口調は、困っている5A児を少しからかうような口調だったので、いざこざにつながることも考えられた。しかし5A児は、黙々と5D児のアイデアを試していた。



自己抑制

① 友達に尋ねることへの不安、うまくいかないことへのもどかしさはあるものの、「諦めたくない」と気持ちを調整している

調整

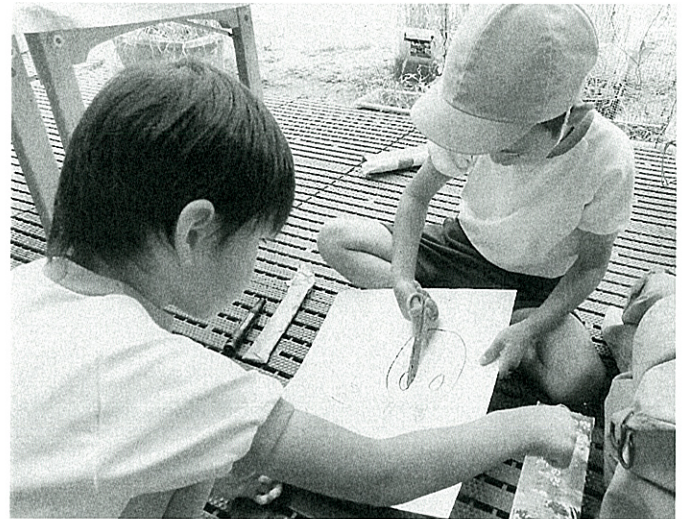
(教師の援助)

なかなかうまくいかず、意欲が失われるかもしれないと思い、仲立ちしたり、目打ちを提示したりした。

自己抑制

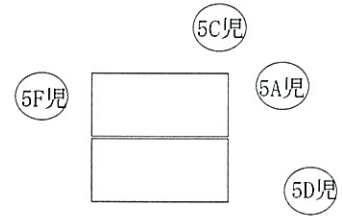
② 教師が仲立ちし、5D児が協力的になったこともあり、再び挑戦し始めた

再挑戦



(補足)

5A児, 5C児, 5D児, 5F児の位置関係



事例4-9 5A児 11月30日 「もうあの魚だって取れないし！」

自己抑制: 自分の気持ちを抑えて行動すること

幼児の姿

弁当後, 5A児は学級の友達2~3人と一緒に, テラスから園庭に向かって自分でつくった釣り竿を垂らし, 自分でつくった魚を使って釣りごっこをしていた。しかし, 釣り上げた魚がグレーチングの下に落ちたことをめぐって, 5N児と5A児でいざこざになり, 5A児が大声で泣き始めた。

教師 「5A児くん, どうしたの？」

5A児 「僕がここで釣りをしていたら, 5N児くんが僕の手をつかんで揺らしてきて, そのせいで僕がつくった魚がここ(グレーチングの下)に落ちちゃったのっ！」

5N児 「僕何もしてない」

(補足)

5A児は, 対人関係で困ったことがあると, その場で大泣きすることがよくある。1学期は一度大泣きすると, 気持ちが落ち着くまで泣き続けて話せないこともあった。

5A児 「嘘だっ！」

その後も、5A児と5N児の言い合いが続いた。そこで、今後同じことが起きないように、お互いどうすればいいか、5A児と5N児と教師の3人で考えることにした。しかし、怒ったり泣いたりすると、5A児の声は益々大きくなっていった。

教師 「うーん…じゃあ、どうしたらいいかねえ？」

5A児 「もうあの魚だって取れないし！」

5A児と教師とのやり取りがしばらく続いた。もう一度つくってみることを教師から提案するものの、納得がいかないのか、5A児の涙はなかなか止まらなかった。

教師 「つくってみて困ったら、先生手伝おうか？それに5E児くんとかも手伝ってくれるかもよ」

①魚が落ちてしまってから約20分、ずっと大きな声で泣き続けていた5A児がようやく落ち着き始め、少しずつ涙がおさまってきた。その後も約20分、鼻をすすったり涙をぬぐったりしながら過ごしながらも、降園準備にとりかかり、降園する頃には涙がおさまった。

そして翌日、②「今日は代わりの魚つくるぞー！」と5A児は張り切って登園した。一人で黙々とつくり、「よし、昨日と同じ魚ができたー！」と満足そうな表情を浮かべた。

(教師の援助)

5A児、5N児、教師の3人で話をする場を設けた後、5A児と教師と2人で話をした。5A児の思いを十分に出し切ることができるよう、時間をかけてじっくりとかかわった。

(教師の援助)

「困った時には友達や先生が手伝ってくれる」と思うことで、気持ちが前向きになるのではないかと思い、声を掛けた。

自己抑制

- ① 5N児や教師に、自分の思いを全て表出できたことで、嫌だった気持ちを少しずつ調整しはじめた。降園準備にとりかかる頃には、自分なりに気持ちを切り替え始めた

調整
切り替え

自己抑制

- ② 教師の提案を受け入れ、一人で再び前向きに魚をつくった

受け入れ
再挑戦

事例4-10 5A児 3月1日

「50児くんが『5A児くん当たったよ！』って強く言われて嫌だったのー」

自己抑制:自分の気持ちを抑えて行動すること

幼児の姿

学級の友達と一緒に転がしドッジボールをしていた5K児が、教師のところにやって来て、「先生、ちょっとこっち来て！転がしドッジボールしてたら、5A児くんが泣いちゃって…。なんか、50児くんが『5A児くん当たったよ！』って強く言っちゃって、それが嫌だったみたいなんだけど…」と話しだし

た。そこで教師は、5K児と一緒に、泣いている5A児のもとへ向かった。

教師 「5A児くん、どうしたの？」

5A児 「50児くんに『5A児くん当たったよ！』って強く言われて嫌だったのー」

教師 「そっかあ。強く言われたのが嫌だったんだね」

5A児は泣きながら教師に話した。涙はなかなか止まらない。教師が50児の姿を探すと、50児は5メートル程離れたテラスに気まずそうな顔をして座っていた。教師が5A児と話している間に、5K児は50児のもとに駆け寄っていき、5K児と50児で何か話をしていたようだった。5K児が何を話していたか、教師は聞き取れなかったが、50児が「ちょっと強く言いすぎちゃったの」と下を向きながら話す声が聞こえてきた。そして50児との話を終えた5K児が、すぐに5A児のもとに駆け寄ってきた。

5K児 「5A児くん、『ちょっと強く言いすぎちゃった』って50児くん言ってた」

①5A児 「…（頷く）」

5K児の言葉を聞いた5A児は、小さく頷きながら、涙をぬぐい始めた。涙もすぐに止まり、5A児は外野に立ち、再び転がしドッジボールを始めた。

そして数分後には、50児が転がしたボールが偶然サッカーゴールに入り、5A児は50児と一緒に笑っていた。

(教師の援助)

泣いている5A児に出来事を尋ね、状況を把握しようとした。また5A児が安心できるような、嫌だった気持ちに共感しながらかかわった。50児とのいざこざだったので、50児にも出来事や思いを尋ねる必要があると思い、50児の姿を探し、5A児と50児と教師とで話をする場を設けようと考えていた。

(補足)

後で5K児に確認したところ、「5A児くん、50児くんに強く言われて嫌だったみたいだよ」と5K児が伝えると、50児が「ちょっと強く言いすぎちゃったの」と答えたそうだった。

自己抑制

- ① 5K児が仲介して代弁したことにより、5A児の気持ちが50児に伝わり、5A児の気持ちは落ち着いた。また、教師だけではなく、一緒に遊んでいた5K児にも、自分の気持ちが伝わったことで、5A児は安心し、自分なりに気持ちを切り替えている

仲介	代弁
共感	安心
切り替え	

考察 -5A児の1年を振り返って-

1. 「探究心」「自己主張」「自己抑制」の発達の様相について

(1) 「探求心」について

事例4-1では、製作場面で自分のつくりたいものの完成形のイメージがあり、それを実現しようと、**明確な目的**に向かって**試行**しながらつくり方（工夫の方法）を見つける姿が見られた。何度も試行できたのは、完成させたい気持ちが強かったことに加え、周りの友達が課題解決のためのアイデアを提案してくれたからであると考えられる。

事例4-2，4-3，4-4では、自分が興味をもった自然物について、もっと知りたいと思い、自ら自然物の特徴に**気付き**、自然物への興味が高まっていく姿が見られた。事例4-2，4-3では、図鑑や絵本を使って、実際に見つけたものと**照合**させながら調べ、さらに事例4-4では冬芽に対する**好奇心の持続**が見られ、身の回りの自然に目を向け、自分で熱心に見つける姿があった。身近な自然物のおもしろさを知る体験から好奇心をもち、もっと知りたいという思いがうまれたことが、図鑑を使って調べたり、好奇心をもち続けたりする姿につながったと考えられる。

(2) 「自己主張」について

事例4-5では、自分が困ったことを教師に**手助け**を求める姿が見られたが、事例4-6では、自分と友達が困ったことを、友達に対して**呼びかけ**、解決方法を**提案**する姿が見られた。事例4-7では、自分が困ったことを、同じ劇づくりをする多くの**友達への相談**により、皆と一緒に解決する姿が見られた。事例4-5では自分が困ったことであつたのに対し、事例4-6では自分と友達が困ったことであつたため、友達に対して相談しやすかつたのではないかと考えられる。事例4-5では自分が困ったことを友達に相談することに不安が見られたが、事例4-7では自分が困っていることを友達に相談しており、友達に相談することに対しての気持ちの変化が見られた。事例4-5で友達が助けてくれたことによりうまくいったことや、事例4-6で友達と一緒に解決できたことで、友達に相談することへの不安感が和らいでいったことが要因として考えられる。

(3) 「自己抑制」について

事例4-8では、思っていたことができないもどかしさを抑えて、友達や教師の促しにより、**再挑戦**する姿が見られた。事例4-9では、友達に対する怒りや、ものがなくなった悲しさを抑えて、時間をかけながら自ら気持ちを**切り替え**、**再挑戦**する姿が見られた。事例4-10では、友達の言い方が受け入れられなかつたが、友達の代弁により、遊びを続けたくない気持ちを抑えて、その場で自ら気持ちを**切り替え**、行動する姿が見られた。このように、自ら気持ちを切り替えて行動する姿へと変わっているのは、友達や教師が抽出児の思いを受け止めたり、共感したりしたことで、自分の気持ちを理解してもらえたと感じたからではないかと考えられる。

2. 環境の構成と教師の援助について

「探究心」の発達において、事例4-1の製作場面では、抽出児が友達の提案したアイデアによって思いを実現できた要因として、教師が周りの友達につなぐ援助が有効であったからだと考えられる。自分だけのアイデアで解決できない課題に対して、いろいろなアイデアを知ったり試したりすることで解決することができるため、効果的な援助であると考えられる。

事例4-2, 4-3, 4-4では、自然物への興味が高まり、自ら調べたり気付いたりすることができた要因として、自然物を保育室内に設置し、手に取って調べたり遊びに使ったりできるような環境や、関連する絵本や図鑑を掲示し、自分で見たり調べたりできる環境を構成しておいたことが挙げられる。

「自己主張」の発達において、友達に相談することへの不安感が和らいでいった要因として、友達につなぐ援助が有効であったからだと考えられる。事例4-5は周りの友達数名との仲立ちであったのに対し、事例4-7は同じ劇づくりをする友達全体へと仲立ちしているのは、事例4-6で抽出児が遊びの仲間に自分から呼び掛ける姿が見られたためである。幼児のその時々の様子に合わせて、適切な相手との仲立ちとなることが重要であると考えられる。

また事例4-6で、自分から友達に呼び掛ける姿が見られたのは、集団遊びを楽しめるような環境構成を行ってきたからであると思われる。抽出児にとって、自分の困ったことを相談することに比べ、皆で困ったことを相談することの方が、友達からの共感を得やすかったり、解決できないことに対する不安を感じなかったりしたためであると考えられる。

「自己抑制」の発達において、抽出児が自分の気持ちを理解してもらえたと感じた要因として、教師が思いを受け止めるとともに、友達との仲立ちとなる援助を行ったことが挙げられる。事例4-8では、教師が思いを受け止めながら、友達のアイデアを取り入れることができるようかかわったことで、友達も抽出児の思いを受け止め、手助けをすることにつながった。事例4-10では、教師が思いを受け止めている時に、友達が進んで仲立ちとなっている。それは、これまでに教師が仲立ちとなっている姿を見たり、友達といざこざを解決したりすることを繰り返してきたことが要因として考えられる。また、事例4-9では、教師が時間をかけて一対一で抽出児の思いを受け止めたことで、自分の思いを出し切り、前向きに考えることができたと考えられる。